

## 日本列島における更新世後期以降の気候変動のトリガーはなにか？ West Pacific warm water pool の役割

What trigger have caused climatic change since late Pleistocene in Japanese Islands? : A role of West Pacific warm water pool.

# 福澤 仁之[1]

# Hitoshi Fukusawa[1]

[1] 都立大・理・地理

[1] Dept. of Geography, Tokyo Metropolitan Univ.

最近、地球表層環境に強いインパクトを与えて、突然かつ急激なグローバルな気候変動を起こすトリガーについて多くの議論がなされている。とくに、インパクトを与える発現地として、・北部大西洋・南極大陸周辺および・西部太平洋暖水域 (West Pacific warm water pool) があげられ、それらの地域における変動の先行および遅延について新知見が得られつつある。日本列島を含む東アジアの気候変動は、チベット高原の低気圧と西太平洋暖水域の高気圧によって起動される東アジア夏季モンスーンによって強い影響を受けている。水月湖の年縞堆積物における風成塵・炭素フラックスの検討によれば、グリーンランドを含む北部大西洋周辺に比べて、東アジアにおける晩氷期のベーリング期に相当する温暖化時期は1,000年程度先行していることが明らかになった。とくに、水月湖における夏季表層水温の上昇の始まりは18,000~16,000年前であり、それによる基礎生産量の増加も確認された。一方、南シナ海における海洋堆積物コアには、西部太平洋暖水域に起動された夏季モンスーン活動の活発化イベントが17,000年前から10,000年前にかけて9回も記録されていた。この活発化イベントも諏訪湖の湖底堆積物に降水量の増加イベントとして記録されていた。すなわち、東アジアにおける更新世以降の気候変動のトリガーは、年縞をもつ湖沼堆積物による解析から、隆起したチベット高原とWWPの水温変化によって起動された東アジア夏季モンスーンであったことが明確となった。